

令和3年度 第3回高田区地域協議会 次 第

(会 議) 日時：令和3年6月21日(月) 午後6時30分
会場：高田城址公園オーレンプラザ 会議室

- 1 開会

- 2 議題等の確認

- 3 報告
 - (1) 令和3年度地域活動支援事業について

 - (2) 地域協議会に関する意識調査の結果について

- 4 議題
 - (1) 地域課題の検討について

 - (2) 令和3年度地域協議会の活動計画について

- 5 事務連絡

- 6 閉会

【次回会議 7月20日(火) 午後6時30分～：福祉交流プラザ】

【次々回会議 8月23日(月) 午後6時30分～：福祉交流プラザ】

令和3年度 高田区 地域活動支援事業 採択事業内定一覧

資料No. 1

【高田区】地域活動支援事業予算：

12,400,000 円

審査採点した委員数 19人

点数ボーダーライン (19人×25点÷2=237.5点)

予算ボーダーライン

順位	整理番号	事業名	提案者名	事業費(円)	補助希望額(円)①	優先採択方針	評価結果								継続事業の審査結果			減額する額③ ①× ②×5%	配分予定額 (千円未満切捨) ①-③	地域協議会の 審査採択結果	左記を踏まえた内定			
							基本審査(人)		共通審査(点)						継続事業審査(人)						継続事業として判断された回数(通算)②	採否	補助額(円)	
							適合する	適合しない	公益性	必要性	実現性	参加性	発展性	合計	平均点	該当する	該当しない							結果
1	3	青田川桜木整備と環境啓発事業	青田川を愛する会	1,031,800	940,000	○	19	0	66	64	66	60	61	317	16.7	19	0	継続	3	141,000	799,000	採択	採択	799,000
2	10	お馬出しプロジェクト事業	お馬出しプロジェクト	320,800	320,000	○	19	0	61	60	61	60	58	300	15.8	19	0	継続	3	48,000	272,000	採択	採択	272,000
3	13	高田誓女の文化の保存・発信事業	NPO法人高田誓女の文化を保存・発信する会	934,760	850,000	○	18	1	60	57	61	54	58	290	15.3	10	9	継続	3	127,500	722,000	採択	採択	722,000
4	6	三世代交流のまちづくりを発信する事業	南三世代交流プラザ運営協議会	526,430	494,000	○	19	0	59	54	59	63	53	288	15.2	7	12	新規		0	494,000	採択	採択	494,000
5	8	地域で「あんしん」子どもへの暴力防止事業	CAP・じょうえつ	199,240	185,000	○	19	0	57	58	55	54	52	276	14.5	17	2	継続	1	9,250	175,000	採択	採択	175,000
6	18	風鈴街道in雁木2021事業	越後高田・雁木ねっとわーく	998,860	980,000	○	18	1	57	51	56	57	54	275	14.5	18	1	継続	2	98,000	882,000	採択	採択	882,000
7	7	地域資源を活かした高田まちづくり事業	特定非営利活動法人街なみFocus	627,330	627,000	○	19	0	58	54	54	55	51	272	14.3	19	0	継続	3	94,050	532,000	採択	採択	532,000
8	12	上越美術協会の上越地域における美術文化振興事業	上越美術協会	220,000	90,000	○	18	1	56	53	60	51	49	269	14.2	5	14	新規		0	90,000	採択	採択	90,000
9	17	高田世界館周辺散策マップリニューアル事業	NPO法人街なか映画館再生委員会	308,000	300,000	○	18	1	55	54	51	50	51	261	13.7	8	11	新規		0	300,000	採択	採択	300,000
10	1	地域の町しらべ冊子と竹灯籠事業	南本町小学校区まちづくり協議会	770,600	720,000	○	17	2	52	48	55	54	49	258	13.6	1	18	新規		0	720,000	採択	採択	720,000
11	20	北部地域の文化・賑わいを創出する事業	高田区北部振興会	1,464,538	1,100,000	○	19	0	53	44	51	50	50	248	13.1	19	0	継続	3	165,000	935,000	採択	採択	935,000
12	2	水墨アートで高田区の文化を創出！上越エリア最大の公募展「上越水墨画フェスティバル」事業	上越水墨画フェスティバル実行委員会	870,000	400,000	○	17	2	49	48	56	48	46	247	13.0	2	17	新規		0	400,000	採択	採択	400,000
13	16	高田城復元模型完成展示会と植木宏先生による「高田城を語る」記録撮影ビデオ作製事業	高田城復元ネットワーク	958,360	900,000	○	17	2	54	47	47	48	44	240	12.6	2	17	新規		0	900,000	採択	採択	900,000
14	19	Kinaiyaプロジェクト推進事業	Kinaiyaプロジェクト	566,940	566,000	○	16	3	49	50	48	45	45	237	12.5	3	16	新規		0	566,000	不採択	不採択	
15	14	第1回まちやdeマルシェ事業	まちやdeマルシェ実行委員会	1,000,000	900,000	○	17	2	45	48	44	48	45	230	12.1	2	17	新規		0	900,000	不採択	不採択	
16	5	今年度の「ちりつも観光プロジェクト」の活動テーマは「やってみよう！」6月1日から翌3月末まで300日の毎日、ハガキを出して高田区の観光をPRします！事業	ちりつも観光プロジェクト	1,200,000	1,165,000	○	18	1	49	42	50	40	46	227	11.9	18	1	継続	3	174,750	990,000	不採択	不採択	
17	11	松平忠輝公と五郎八姫の会事業	松平忠輝公と五郎八姫の会	607,430	599,000	○	18	1	47	44	47	43	42	223	11.7	4	15	新規		0	599,000	不採択	不採択	
18	9	NEO浄興寺プロジェクト事業	NEO浄興寺プロジェクト	1,569,024	1,340,000	○	17	2	45	43	41	48	44	221	11.6	19	0	継続	3	201,000	1,139,000	不採択	不採択	
18	15	アートなマルシェで学んであそべ事業	アートマルシェ実行委員会	248,755	210,000	○	17	2	49	42	44	44	42	221	11.6	1	18	新規		0	210,000	不採択	不採択	
20	4	浄興寺大門通り「クリーン＆ブラッシュアップ」事業	浄興寺大門通りまちづくり協議会	134,500	134,000	○	17	2	43	41	47	42	42	215	11.3	1	18	新規		0	134,000	不採択	不採択	
合計				14,557,367	12,820,000																			

採択事業数	13件
補助金配分額計	7,221千円
補助金予算残額	5,179千円

地域協議会に関する意識調査の結果

1 調査の概要

(1) 目的

委員個人が感じている地域協議会の問題を浮き彫りにし、見直し検討を進める契機の一つとするほか、見直し案を検討する上での基礎資料として活用するもの

また、現地域協議会の活動における良い事例、改善点を把握し、次期地域協議会の運営にいかすもの

(2) 対象者

第4期地域協議会委員（任期：平成28年4月29日から令和2年4月28日まで）

(3) 実施時期

- ・地域協議会ごとに令和2年2月以降の会議開催時に調査票を配付
- ・調査票の回収は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、会議の開催を中止したことから、事務局ごとに任期満了の日を目途に実施

(4) 回答状況

- ・令和2年3月1日時点の委員数：385人
- ・回答者数：313人（男性：258人、女性：54人、無記名：1人）
- ・回答率：81.3%

2 調査結果の概要 ※別紙のとおり

3 調査結果を踏まえた今後の予定

- ・4～6月 市で運用面における改善点の洗い出しとその改善策の検討
- ・6月 改善策（案）の方針決定
- ・7～8月 地域協議会会長会議へ説明 ※改善内容に応じて
各地域協議会での意見交換 ※改善内容に応じて
- ・11月 上記の結果を踏まえ、地域協議会会長会議へ改善策（案）の説明

地域協議会に関する意識調査 回答の概要

項目	頁	回答の概要
Q 1 地域協議会委員としての活動を振り返って		
(1)活動に参加して良かったこと、悪かったこと	1	<ul style="list-style-type: none"> ・良かったとする意見 427 件のうち、約 6 割が地域のことを知り、関わりが持て、地域を考えることができたことを挙げている。 ・悪かったとする意見に、勉強不足、理解不足を反省するものが多く、仕組みや用語などが委員にとって難しいことが分かる。
(2)①活動に参加する上で、支障となったこと	4	<ul style="list-style-type: none"> ・仕事、家庭、他の役職との両立が支障となっているという意見が約半数を占めている。おおむね月 1 回の会議以外に地域との意見交換、委員研修も含めると活動時間が多くなり、仕事等との調整がより必要になっている。 ・各委員が職場、家族、町内会等と調整し、活動に参加していることから、地域協議会への理解が得られるよう、認知度の向上、活動状況の周知が必要となる。
②支障となったことの解消・工夫の方法	4	
◇自由記述	6	<ul style="list-style-type: none"> ・全 218 件の意見のうち、報酬の支給等地域協議会の制度に関することが 54 件 (24.8%)、市民目線での分かりやすい説明を求めるなど行政への要望が 52 件 (23.9%) であった。
Q 2 地域課題の把握方法について		
(1)個人として地域課題を把握するために取り組んでいること	8	<ul style="list-style-type: none"> ・取り組んでいることが「ある」と「ない」がほぼ同数であった。取り組んでいることとして、町内の行事や各種団体のイベント等への参加、日常生活での会話、町内会や団体等への所属が多かった。
(2)地域協議会として地域課題の把握に対する評価	9	<ul style="list-style-type: none"> ・「地域課題を把握し、議論に反映できた」とする回答が 38.0%であった一方、「地域課題を把握したが、議論に反映することがあまりできなかった」とする回答が 27.2%であった。 ・その要因として、委員の認識を共有できなかったこと、そのための議論が十分にできなかったことが挙げられた。
(3)地域の団体との定期的な意見交換の機会の要否	10	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的な実施 (39.0%) より、必要なタイミングでよいとする意見 (52.7%) が多かった。 ・陳情や要望が中心となる、問題の把握のみではなく、議論し具体的な取組につなげることの重要性から効果を疑問視する理由が多く見られた。
◇自由記述	12	<ul style="list-style-type: none"> ・地域課題の把握方法の提案のほか、他区の地域課題の提供や市に要望された事項の情報提供など行政 (事務局) からのサポートを求める意見もあった。
Q 3 議論の進め方等について		
(1)意見書提出までの過程で苦勞した点、工夫した点	14	<ul style="list-style-type: none"> ・住民のみならず、委員間にも多様な意見があり、それらの意見のとりまとめに苦勞したという意見が多かった。 ・現状を把握するため、実際に問題点を経験 (公共交通機関の利用) した区もあった。

項目	頁	回答の概要
(2) 自主的審議の進め方	15	<ul style="list-style-type: none"> 自主的審議が一定の結論を目指して進められている一方、23.6%の委員が結論をまとめるための議論が進められていないと回答した。 課題解決に向けた具体的なステップが具体化されていない、テーマが大きすぎて抽象論に堕している等の状況が確認できた。
(3) 地域を元気にするために必要な事業(元気事業)の認知度	17	<ul style="list-style-type: none"> 委員の半数以上は、地域を元気にするために必要な提案事業を「よく知らない」、もしくは「知らなかった」と回答している。 ある程度内容を知っている委員であっても、取組の基本的なイメージや方法を委員間で共有できなかったとの回答が目立つ。
(4) 自主的審議における参考人(オブザーバー)招致の要否	19	<ul style="list-style-type: none"> 6割を超える委員が仕組みを検討した方がよいと回答しており、様々な意見を聴ける、課題が明確になるといった意見のほか、議論を開示することで、地域の理解・協力を得られることを理由とする意見もあった。
◇自由記述	21	<ul style="list-style-type: none"> 委員全員が発言できるような会議運営を望む意見や行政からの助言、他の区の事例紹介を望む意見が出ている。
Q 4 議論の結果の地域への貢献について		
(1) 地域の団体との連携を通じて課題の解消に向けて取り組むこと	22	<ul style="list-style-type: none"> 約7割の委員が地域の中で課題の解消に向けて取り組むことを念頭においており、地域協議会の目的・役割が一定の水準で認識されていると考えられる。
(2) 地域協議会が地域の団体との連携等に必要なこと	24	<ul style="list-style-type: none"> 地域の団体等との意見交換、議論、連携・協力といった回答が多く、その中において、日常的に相談などができる関係の構築、委員に気軽に課題を持ち込める環境づくり等、日頃の取組の必要性を感じている意見もあった。
(3) 地域協議会での議論の結果の地域への貢献度	25	<ul style="list-style-type: none"> 66.7%の委員が一定程度以上、地域に貢献できたと回答している。
(4) 地域活動支援事業で採択した事業の地域への更なる貢献	26	<ul style="list-style-type: none"> 採択された事業を報告するだけでなく、各団体が地域活動支援事業を活用して活動していることや事業成果をPRするなど、地域住民等への事業紹介、周知が必要との意見が最も多かった。 そのほか、審査方法の工夫、採択事業の成果検証及び評価が必要との意見も多くあった。
(5) 地域活動支援事業に地域協議会提案事業枠を設置することの要否	28	<ul style="list-style-type: none"> 肯定意見 43.8%、否定意見 34.5%であった。地域協議会提案枠にメリットを感じる一方、事業内容の精査や地域との連携など、より地域の理解、納得が得られる方法でなければならないという考え方が多数であった。
◇自由記述	30	<ul style="list-style-type: none"> 地域活動支援事業について、観光等広域的に取り組むことができるよう複数区合同の提案事業が必要とする意見や地域協議会の議論に総合事務所も参加し、意見を出してほしいなど、新しい意見も出された。

項目	頁	回答の概要
Q5 地域協議会委員の人材確保について		
(1) 地域協議会としての地域への活動周知	32	・地域協議会の活動を「知ってもらうことができた」、「知ってもらうことができなかった」がほぼ同数であった。認知度向上には、たよりの発行、意見交換会、地域活動支援事業の審査採択の実施が貢献している。
(2) 委員に必要な資質	34	・地域をよくしたいと思う人、地域活動に携わっている人、協調性のある人などの意見が多数を占めている。一方で、委員活動の中で経験を積めばよいので、まず参加することが必要とする意見や地域からの推薦ではなく、自分の意思で参加を希望する人といった意見もあった。
(3) ①公募公選で良かった点	36	・意見 189 件（166 人・回答者の 53.0%） ・やる気のある人、誰でも応募できる、様々な立場の委員が集まるといった意見が中心であった。このほか、勤務地でも応募できたらよい、「良かった」というよりやむを得ない、代表性は公募公選でないと付与されないという意見もあった。
②公募公選で悪かった点、困った点	37	・意見 191 件（164 人・回答者の 52.4%） ・立候補が少ない、立候補の実情として実際は地域からの選出といった意見が約半数であった。その延長である委員構成の偏り、委員としての活動姿勢の差に関する意見も多い。
(4) 委員の任期	38	・現行でよいとする意見が 53.4%であった。現行でよいとする理由として、地域や制度を理解した上で活動できる、議論の結論・成果を出すには必要といった観点が多い。
(5) 委員の定数	40	・今と同じでよいとする意見が 72.5%であった。少なくした方がよいとする意見 40 人のうち、18 人が定数 12 人の区、9 人が定数 18 人以上の区の委員であった。
◇自由記述	42	・人材を確保するには、報酬を支給することや、活動の周知が必要とする意見、委員の選任方法の見直しといった意見があった。
その他		
◇自由記述	44	・各委員が 4 年間の活動を振り返って回答していることから、各項目において、評価している点、改善の提案、疑問に感じたこと等、回答内容が多岐に渡っている。

高田区地域協議会 地域課題に関するグループによる検討結果一覧

<p>A班 (委員：本城、飯塚、杉本、 富田、村田、茂原)</p>	<p>B班 (委員：高野、北川、小嶋、 佐藤、松倉、宮崎)</p>	<p>C班 (委員：澁市、浦壁、小川、 栗田、西山、廣川)</p>
<p>①地域活動の活性化について 市民を交えて地域活動支援事業の発表会を行い、地域活動の推進に寄与する。</p> <p>②雁木、空き家対策、高齢者世帯の問題について 町内会やその他組織と一緒に、高田区を4つのブロックに分けて、女性の意見も取り入れる形で、上記テーマを共有し意見交換会を行う。</p>	<p>③中心市街地の活性化について 中心市街地に関する共通認識を踏まえた上で、街なか回遊、賑わいの創出に繋がる取組みを検討していく必要がある。</p> <p>④空き家と防犯の問題について 今回の大雪で、切実な問題になった。住民としては、火事、泥棒、倒壊等の不安がある。情報や建物の管理のあり方について、地域と行政が連携していくことが必要である。</p>	<p>⑤高田の魅力の共有とまちづくりについて 中心市街地の空洞化の中、高田のまちの魅力を共有して、どのような方法でまちづくりに生かしていくか。</p> <p>⑥大雪、水害、地震の災害時における対応について 大雪、水害、地震の災害時において、市民生活を守るための対応について課題があるため、考える必要がある。</p> <p>(検討手法について) 全体会議だけではなく、いくつかのテーマに対して、それぞれ分科会という形で議論して、全体会議にあげる方法で議論してはどうか。</p>

グループ別検討結果を踏まえた地域課題・今後の進め方について（正副会長案）

①地域活動の活性化について

(案):年度末までに令和3年度地域活動支援事業の提案団体による活動内容の発表会を開催する方向で協議する。

<協議内容> 実施時期、実施場所、開催方法などの発表会の企画立案を検討する。

(金谷区、三郷区では地域協議会の活動報告会にあわせて提案団体から取組内容の報告の時間を設けている。)

②雁木、空き家対策、高齢者世帯の問題、③中心市街地の活性化、④空き家と防犯の問題について

(案):テーマを「高田区の活性化について」とし、例えば高田区を4つのブロックに分けて、地域住民との意見交換を行いながら、解決策などを協議する。

<協議内容> ・高田区の市街地の現状などを認識した上で、街なか回遊、賑わいの創出に繋がる取組（高田区の活性化に向けた取組）を話し合う。

・雁木、空き家、高齢者世帯に関する現状や問題を把握し、課題解決に向けた取組を話し合う。

⑤高田の魅力の共有とまちづくりについて

(案):テーマを「高田区の魅力の発見と共有について」とし、高田区の魅力とは何か、良いところはどこか、を委員間で発見し(話し合い)、それをどのように活かしていくかを協議する。

<協議内容> ・今後の話し合いで決定する。

⑥大雪、水害、地震の災害時における対応について

(案):テーマを「高田区における災害(大雪、水害、地震)時の対応について」とし、災害時の住民生活に及ぼす影響やその対応策を協議する。

<協議内容> ・防災士や専門家などによる講話

・災害時別の対応策を話し合う。

○検討手法…テーマ別に分科会形式で協議する。

・各委員の希望を聞き、分科会のメンバーを決める。

・分科会は、定例会とは別に月1回程度開催。(各分科会の開催日は同日(同時間)とする)

・年度末あるいは委員の任期満了までに分科会での検討内容をまとめ、全体会議で報告し、最終的に地域協議会の意見として整理する。